



みなと

みなと 53 号

2017 年 12 月 1 日

兵庫県声の図書赤十字奉仕団

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5

日本赤十字社兵庫県支部内

(Tel) 078-241-9889 (Fax) 078-241-6990

代表者 田辺 依子

編集者 八木 はるみ

第 28 回 交流会



平成 29 年度 兵庫県声の図書赤十字奉仕団 第 28 回交流会プログラム

2017 年 11 月 23 日 (木)

司会 古川直子

- 12 : 00 開会挨拶 兵庫県声の図書赤十字奉仕団委員長 田辺依子
来賓挨拶 日本赤十字社兵庫県支部奉仕課 平野浩美課長
来賓紹介 平野浩美課長 伴仲正倫課長補佐
姫路赤十字看護専門学校 学生奉仕団 寺本 葵様
リスナー代表挨拶 籠谷賢治様
リスナー紹介
- 12 : 20 昼食
- 13 : 10 イベント 落語 出演 瓜田家酔笑 氏
- 14 : 00 歓談 (交流の時間)
- 14 : 50 全員合唱 「今日の日はさようなら」
閉会挨拶 交流会実行委員長 池内早苗
- 15 : 00 閉会



田辺委員長のご挨拶



リスナー代表 籠谷さんのご挨拶
ハーモニカで花時計のテーマを♪



爪田家酔笑さんの創作落語“赤とんぼ” リスナーご所望“時うどん”の触りも・・・



盲導犬君も落語を聴きながら?・・・リラックス

平成 29 年度 兵庫県声の図書赤十字奉仕団 第 28 回交流会を終えて

前日の夕方から降り出した雨が一晩中降り続き、眠れぬ夜を過ごしましたが、朝を迎え、陽が差してきたとき、思わず天に感謝いたしました。11 月 23 日（木）、リスナー 52 名、同行者 43 名、来賓 3 名、団員 62 名、盲導犬 1 頭のご参加を得て、第 28 回交流会を開催いたしました。田辺委員長の開会挨拶に続き、来賓の日赤兵庫県支部奉仕課 平野浩美課長、伴仲正倫課長補佐、姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団の寺本葵様を代表して、平野課長よりご挨拶を頂戴いたしました。リスナー代表の籠谷賢治様からは、声の図書製作に対してお礼のお言葉と、リスナーの皆さんには、折角の機会だから、日頃感じていることを団員と話してくださいと言われ、最後に、ご自分たちにとって貴重な情報源なので、声の図書製作活動を続けていってほしいというお言葉を頂きました。

昼食は、仕出し屋あさ多のお弁当、季節に合ったゆず饅頭、和歌山直送のみかんを、皆で賞味いたしました。イベントは、「笑いは心の特効薬」をモットーに、各地で講演や慰問活動をされているアマチュアの爪田家酔笑氏による落語を楽しんでいただきました。演目は、同氏が学生時代追いかけていたという桂三枝さん（現・文枝師匠）の創作落語「赤とんぼ」で、軽妙な語り口に会場から何度も笑い声が起きました。その後、質問コーナーでは、様々な質問が出ましたが、「失敗談はありますか？」に対しては、「落語は生ものなので失敗は山ほどあるが、それが勉強だと思う」というお答えでした。中には、「古典落語を少し演ってほしい」というムチャぶり（?）もありましたが、「時うどん」のうどんをすする場面を演じてくださいました。

歓談時間では、以前知り合った団員をわざわざ探して会話を楽しんだリスナーもおられたとか。リスナーの皆さんのご意見や感想はまとめて、「花時計 12 月号」でお届けする予定です。西原さんの盲導犬君が、交流会の間はハーネスを外して「仕事 off」だったために、団員が次々と盲導犬君とも交流していました。帰り際、リスナーの方々から「来年も来たい」という何より嬉しい言葉を頂きました。

今年はチャーターバスの無い交流会となり、果たしてリスナーが参加してくれるのかと不安いっぱいだったスタートでしたが、例年とほとんど同じくらいの参加者数で、胸をなで下ろしました。2 台のバスが同時に到着するということが無くなり、全体の進行に余裕があったように思います。阪神春日野道駅から日赤まで陸橋を使って歩いてもらいましたが、好天に恵まれたおかげもあって、おおむね好感触だったように思います。



交流会直後の反省会では、各担当責任者の実行委員から、感想・提言があり、次回の参考にさせていただければと思っています。

私自身何回も交流会に参加してきましたが、責任者になって初めて、交流会が何と多くの人々の力を結集して成り立っているかということを実感しました。奉仕課の皆さま、本部役員の皆さま、団員の皆さま、そして至らない実行委員長を盛り立ててくださった実行委員の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

実行委員長 池内早苗（こすもす）

デイジー班



「受け入れグループ」

毎月発行される声のアルバムはその月の後半から順次、返ってきます。これを発送・返納記録カードに記帳して、CDが次の号に再び使えるようにきれいにして発送グループに送るのがデイジー受け入れグループの役割です。

現在、はあもにい、青年、あかりの会の3グループで担当していて、作業日は毎月第1と第3月曜日、各グループから2名出て、朝10時半スタートです。祝日に当たっても正月3が日以外は決行です。この定例日以外に、青年グループの一部の方の火曜日の例会の中でも作業していただいて大変助かっています。

作業の概要を紹介しますと、

(1) 返却内容の確認と記帳

まず、専用の郵袋から中身を取り出しますが、CDが2枚以上入っていたり、手紙が同封されていることもあるので注意します。中身と宛名ラベル（リスナーのアドレス側を表にして）をセットにして机の上に並べます。念のために、宛名ラベルとのセット状態は記帳と集計作業が終わるまでキープします。

次に、リスナーごとに用意されている発送・返納を記録するカードに返却日を手分けして記入します。手紙の同封、CDケースの破損など特記事項があればそれも追記します。かなり前のアルバムが返却されることもあるので、正確に記入するよう、気をつけます。

カードへの記入・確認が終われば、トータルの受け入れ枚数、〇年〇月号別の枚数内訳、特記事項などを受け入れ専用ノートに記録します。

(2) 手紙などへの対応

同封の手紙の内容は感想、単行本についての依頼、購読中断依頼などさまざまですが、原則としてすぐに処置します。それぞれの担当グループに連絡したり、点字の手紙は点字班の方に翻訳をお願いします。他のCDが入っているときはリスナーに電話で確認して返送などの対応をします。

(3) CDをきれいに

最後はCDが次の号に使えるように整えます。表面の汚れをCD用のクロスでふき取り、キズの程度を確認し、CDケースに貼った「〇〇月号」の点字テープをはがして所定の引き出しに収納します。

以上が作業の概要ですが、「受け入れ」はリスナーからの情報の入り口のの一つにもなっています。作業を通じて、アルバムを聞いていただいているんだと、リスナーとのつながりを実感することができます。

前月の発送日との関係で、ときには100枚を超える週もありますが、さあ、今週は何枚返っているのでしょうか？

川岸昭夫（あかりの会）

点字班



今年 6 月 13 日に団員向け点字講習会をいたしました。9 名の方が参加され感想をお聞きしましたので紹介いたします。

- ◇ マスが小さいのでどこをうっているのかわからなくなり、何度も同じ個所打ってしまいました
- ◇ 点字班のご苦勞がわかりました
- ◇ とても分かりやすかったです
- ◇ 打っているつもりでも上手く打てていないのか心地よい音がせず、難しかったです
- ◇ ひやー わたしが てんじを うてた (点字)
- ◇ つかれた むずかしい (点字)
- ◇ むずかしかったけど たのしかったです (点字)
- ◇ とでも むずかしく あたまを ふるかいてんでした (点字)
- ◇ はじめて てんじに ふれ とても ごーりてきな ことにおどろきました (点字)

皆様ご参加ありがとうございました。
第 2 火曜日は活動日です。見学の方大歓迎です。

一昨年、神戸市立福住小学校 4 年生の点字講習の感想が届きました。一人一人丁寧に思いが綴られていました。これも紹介いたしましょう。

- ◇ 意外と点字の仕組みが簡単だったので、びっくりしました
- ◇ 点字は目の不自由な人にとって、とても大事なものだと思った
- ◇ 点字をうつのは力かげんが難しくて、すぐに穴があいてしまいました
- ◇ 点字をうつのは思ったより、ぷつぷつしていて気持ち良かったです
- ◇ 目の不自由な人たちは、自分でうって指だけで読んでいるので、すごいと思いました。私にもできることがあったらしたいです
- ◇ 家で「どこにどんな点字があるんだろう」とか「なんてかいてあるのかな」など、この時もらった紙 (点字 50 音一覧表) を見て調べました



このようなメッセージカードを作っています

門田真弓美(ことばの花束)

単行図書検討会



団員の皆様、日頃は単行図書制作にご協力いただき、ありがとうございます。
お陰様で今年度も、10月までにリスナーからのリクエスト本3冊、単行図書検討会の推薦本10冊、プライベート本1冊の計14冊の単行図書が完成しております。また、現在21作品を録音して下さっています。録音して下さる方はもとより、校正や、編集に関わって下さっている皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、単行図書検討会では10月より、これまで「花時計」や「やまなみ」で紹介していただいていた新刊本や、「つちのこ」で紹介していただいていた単行図書のおすすめ本を、一括して「単行図書だより」という番組にして「声のアルバム」に参加させていただくことになりました。毎月 新刊図書、もうすぐ完成予定の図書、そして単行図書検討会で選んだおすすめの図書を3冊程度（こちらは3か月毎に更新）ご紹介しています。ちなみに第1回の10月号では、

新刊図書	「陸王」	池井戸 潤
	「旅猫レポート」	有川 浩
	「理科の散歩道—化学へのみちしるべ」	栗岡 誠司
近刊図書	「夢の守り人」	上橋 菜穂子
おすすめ図書	「新参者」	東野 圭吾
	「夜明けの街で」	〃
	「闇に香る嘘」	下村 敦史

を紹介いたしました。これまで以上に、リスナーからの貸し出し希望が増えることを願っています。

団員の皆様も一度「単行図書だより」を聞いてみて下さい。

先日の交流会において、リスナーの方より「音量の大小が不揃いで気になる事がある」とのご指摘を受けました。録音時はもちろん、校正時にも一層注意して、より良い図書作りを目指したいと思います。



佐竹洋子（そよかぜ）

朗読・音訳を見直す会



朗読歴はまだ数年にもかかわらず、今年度、出席させていただくようになりました。戸惑うことばかりですが、新しく入ったものとして、率直な感想を書かせていただきます。

例会では年間のスケジュールに沿って各グループから出されたご意見や質問を検討し、より良い声の図書を作成するために改良が重ねられます。その歩みは貴重な資料として、今年9月に、“音訳・朗読を見直す会だより第1号～15号と読みのポイント”として冊子にして各グループにお配りしました。

視覚障害のある方へより良い声の図書をお届けするために 毎回熱心に話し合い、検討されます。その姿勢には正直、驚きを覚えました。ボランティアだからと軽く考えていたのです。単なる音訳・朗読だけでなく、少しでも耳に心地良く、心に沁みる声の図書をお届けしたいということなのでしょう。

PHPの試聴とご意見についてですが、各グループで個性や特徴もあると思いますが、一冊の雑誌として届けるためにできるだけ自然に統一された読みができるよう、敢て苦言も必要なことかもしれません。また各グループからのご感想は大変参考になると思いました。

勉強会ですが、お二人のベテランの講師の先生方から、ひとり一人にコメントをいただける貴重な体験ができます。朗読は読み手の心や身体の状態が微妙に反映されるようです。緊張しますがまたとない機会です。多くの方に受講していただきたいと思います。それと、教材や会場の雰囲気などハードルを低くしていただき、リラックスして受講できれば助かります。これは初心者の経験です。

12月20日にはリスナーさんとの“意見交換会”が行われます。これまでリスナーさんのお声は度々紹介されていますが、双方が一緒に席で、忌憚のないご意見、ご感想を直に聴いたり、こちらからも直接伺える大変良い機会だと思います。これまでにこのような会が開かれなかったことが意外に思われました。

今後も留まることなく、その時代、社会情勢などを考慮に入れた新しい音訳・朗読の在り方を探っていく中心的存在であって欲しいと願っています。

木田亜津子（こすもす）



声の奉仕・団員だより

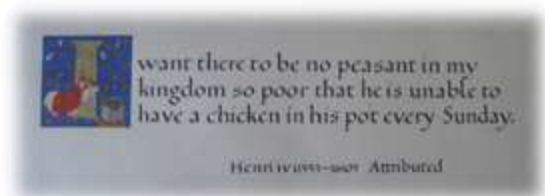


私が所属している神戸 YWCA 声の奉仕グループは 50 年近く前に創設され、兵庫県声の図書赤十字奉仕団に加入してからも 43 年という歴史があります。40 年以上活動している先輩は現在も中心的役割を担い、戦力となって活動しています。声の奉仕の活動を始めてからまだ数年という私なので、諸先輩方に聞いた興味深い苦労話やエピソードを書こうかとも思いましたがそれは先輩方にお任せして、僭越ながら私の二つの趣味についてお話ししようと思います。

一つ目はカリグラフィーです。絵文字ですね？と言われることがあります。15 世紀にグーテンベルクが活版印刷術を発明するまで、本などはすべて手書きでした。ショーン・コネリー主演「薔薇の名前」に写本製作の場面があります。印刷術の発明で手書き文字はすたれましたが、19 世紀後半にイギリスで、ウィリアム・モリスを中心としたアーツ・アンド・クラフツ運動が盛んになり、エドワード・ジョンストンが昔の手書き文字の美しさを再発見、それを復活させました。彼の文字は今もロンドンの地下鉄のあちこちで見ることができます。海外へ行った時には写本を収蔵している図書館などでそれらを研究するのが至福の時間です。

2 つ目はキャンプ。人格形成に貢献していると思われるキャンプ。伝統的な部分と進化して行く部分、より良いキャンプとは？ キャンプ会議で意見交換をしたり教えられたり、いろいろなキャンプを訪問しています。キャンプというとテントを想像されるかもしれませんが、キャビンなどの建物完備がほとんどです。鉄筋三階建て、全室シャワー・洗面所付きツインルームというキャンプ場もありました。印象深かったのは、ダブリン郊外のバレッツタウン・キャンプ。ハリウッド俳優のポール・ニューマンが設立した、難病の子どもとその家族を対象としたシリアスファン・チルドレンズネットワークの一つです。利用者はすべて無料です。北海道にもその一つ、そらぷちキッズキャンプができました。

それぞれのキャンプに個性や特徴があり担っているものも違いますが、共通しているのは子どもたちとスタッフの笑顔です。これからもキャンプに関わって行きたいと思います。



「毎週日曜日に鳥肉が食べられないほど貧しい農民がいる国をよしとしない」アンリ 4 世が言ったと言わなかったとか。



"The Moment of Truth"
from REASON FOR HOPE
by Jane Goodall

安藤時子（神戸 YWCA）

花時計プログラム & リスナーだより



花時計 6月号 (ともしび)

1. 800年の時をつなぐ明珍火箸の響
2. 神戸東遊園地 発祥の地モニュメント
3. 山形新聞掲載のエッセイより
4. 氷の節句、氷の朔日 6月1日
5. お便りの紹介
6. 新刊単行図書のご案内

・明珍火箸は初めて知りました。鈴の風鈴も良い音がすると思いました。

・氷の節句が6月1日とは知りませんでした。旧暦とはすごかったし、驚きました。暑気払いの意味もあるとは知らなかったです。

花時計 7月号 (神戸YWCA)

1. ベテラン添乗員さんにインタビュー
2. アメリカ弥次喜多珍道中
3. 王子動物園の散歩
4. リニューアルした神戸メリケンパーク探訪
5. 新刊図書の案内

アメリカ珍道中、楽しく旅行記を聴かせていただきました。

今回はお出かけシリーズで、それぞれの様子もわかり良かったです。また、こんな機会をやって下さいね。

花時計 8月号 (こすもす)

1. インタビュー「大文字の送り火」、「古都」より
2. 佐藤愛子著「九十歳何がめでたい」より
3. 綾小路きみまろ「夫婦川柳」より
4. 吉沢久子著「ふつうで素敵な暮らし方」より
5. 朝日新聞「みちものがたり」より「永六輔の旅路」
6. 新しい単行図書のお知らせ
7. お便りコーナー

大文字の送り火について知らないことがえらくあるのに気づかされ良い勉強になりました。点灯の仕方も初めて知りました。点火前後の音声も聞けて良かったです。

花時計 9月号 (あかりの会)

1. 朗読「めぐりあい」
2. インタビュー「原爆の話」
3. おはぎとぼた餅の違い
4. 詩吟「太田道灌」
5. NHKハート展
6. 雑学「トイレの話」
7. 絵本「おかあちゃんが作ったる」
8. 新刊図書案内
9. 交流会のお知らせ

・めぐりあいを面白く聴かせていただきました。
・インタビューの原爆の話も戦争の話を知らない私にとり知らないことばかりで、もう戦争は起きて欲しくないと思いました。
・太田道灌の詩吟も初めて聴きました。たまには良いものですね。

花時計 10月号 (はあもにい)

1. わくわくドキドキどんな人に会えるかな？
2. ニューヨークから皆さまへ
唇に歌を心に太陽を
3. 大いなる空とどこまでも続く草原
モンゴル旅行記
4. MARCYのミュージックカフェ
秋の歌のオンパレード
5. お知らせ

・神戸深江文化資料館の話を初めて聴きました。郷土史の話も初めて知り、勉強になりましたよ。
・マーシーのミュージックカフェですが、聴いていて盛りだくさんの曲ですね。

以上は、中原真理子さんからののお便りでした。

花時計 11月号 (ことばの花束)

1. 日野原さんの医療の原点
2. 「座禅」組んでみました
3. 高級魚「クエ」が安価で食べられる！？
4. 万年青の実が食べられた
5. 小林カツ代の料理観
6. カレーだけじゃない、これから消えそうなメジャー菓子



リスナーだより



牧野まりえさん

朝夕は涼しくなりましたが、スタッフの皆様にはお変わりありませんか。8月号も情報満載、大変ありがとうございました。中でも、そよかぜグループの団員紹介、楽しくあらためて「声のアルバム」の人達に感謝しつつ、聴かせていただきました。また、沖縄戦での神戸出身の島田あきらさんに関する記事を昨年聞いておりましたので、神戸養護施設の子供を招待して下さる話題に心を打たれました。

(2017.9.12)

香山良樹さん

「理科の散歩道」の感想・・・中学生の頃を思い出しました。良い本ですね。自然科学の面白いお話し、色々な生き物の関わり、デイジーになるように希望します。

(2017.9.21)

安井文夫さん

毎月、声の図書聴かせていただきまして、ありがとうございます。楽しみにしております。交流会も参加できなくて残念です。皆様にはよろしくお伝え下さい。すみませんが、お願いがあります。神戸新聞“イイミミ”を何回かまとめてでも結構ですが、録音してもらえないでしょうか。ご無理言ってすみませんが、宜しくお願いいたします。

(2017.10.16)

単行図書検討会で、目下検討中です。



Merry Christmas to you ♪